

## 議決事項

件名	提案理由	審議の状況	採決の次第
議案第16号 垂水市教育委員会の事務の点検・評価について	地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項の規定に基づき、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成しようとするものである。	特記事項なし	承認

平成28年度第5回教育委員会定例会出席者

日時及び場所	出席者	
<p>平成28年8月9日(火)</p> <p>午後2時00分</p> <p>↓</p> <p>午後3時40分</p> <p>水之上小学校 2階 図書室</p>	<p>教育委員長 野村 繼 治</p> <p>教育委員 田原 正 人</p> <p>教育委員 中谷 いつみ</p> <p>教育委員 葛 迫 幸 平</p> <p>教 育 長 長 濱 重 光</p>	<p>教育総務課長 池 松 烈</p> <p>学校教育課長 下 江 嘉 誉</p> <p>社会教育課長 野 嶋 正 人</p>

# 会 議 要 旨

## 1 開 会

定刻、定足数に達しており、平成28年度第5回教育委員会定例会を開会した。

## 2 平成28年度第4回定例会会議録の承認

承認

## 3 議 事

議案第16号 垂水市教育委員会の事務の点検・評価について

## 4 その他

- (1) あつまれわんぱく！夏の勉強会について
- (2) 夢の実現！学びの教室について
- (3) 小学校における外国語活動指導講師の派遣について
- (4) 教職員の研修（夏季休業中）について
- (5) ICT整備事業について
- (6) 第10回シーカヤック大会 in 垂水（報告）について

## 5 委員並びに教育長及び課長報告

## 6 閉 会

議事内容等

<p>3 議 事 教育総務課長 学校教育課長 社会教育課長</p>	<p>議案第 16 号 垂水市教育委員会の事務の点検・評価について 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第 1 項の規定に基づき、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成することについて説明。</p>
<p>田原委員</p>	<p>資料 8 ページの外部評価委員の意見の中で、「子供達と高齢者をつなぐコーディネーター的な人を役所外から配置し教育現場を活性化できないだろうか。」という意見があるが、学校応援団の取組と同じではないかと感じた。今は、学校の教育活動に、地域の各分野の名人や得意な方々が手助けをする制度が、学校応援団としてある。学校応援団のコーディネーターは、各小学校は、公民館の主事、中央中は、社会教育課の方がやっている。現在のこのコーディネーターをもっと積極的に活用すればいい。</p>
<p>委員長</p>	<p>今、田原委員からもあったように、学校応援団がすでに活動している。可能であれば、今の学校応援団を充実させため、統括するポジションを設けて、そこに人材をあてるよう市当局に要望することも考えられる。</p>
<p>社会教育課長</p>	<p>2 週間前に、市内の各小中学校の学校応援団に関わっている方々が一同に会して、情報交換会を行った。それぞれの学校で特色があり、取組も違い、情報交換のいい機会になった。依頼する学校側は、要望を明確にし、コーディネートする主事は、地域の方々が持っている技能、知識を幅広く情報収集し、データベース化していただければ、学校と地域のベクトルが一緒になると意見が出された。この会を機会にさらに活発化すればいいと思う。</p>
<p>教育長</p>	<p>小中学校の学校応援団の方々には、大変支援をしていただいている。学校便りでは各学校から家庭や地域に対して、学校応援団からどういう協力をいただいたか情報発信はしている。市報等でも特集を組んで、学校応援団の方々の協力内容を情報発信して周知していきたい。</p>
<p>委員長</p>	<p>社会教育課長、教育長からあったように、自分も登録したいという方々がいっぱい出てきて、有効に活用できればいい。例えば、水之上の方が終原に出向いて行って協力をするというようになれば素晴らしい。</p>
<p>中谷委員</p>	<p>15 ページの社会教育課のブックスタート事業は、とてもいい取組である。この取組のねらいに、「読書が好きな児童を増やすために。」と書いてあるが、絵本は、読書が好きな児童を増やすだけではなく、赤ちゃん、児童と、大好きなお母さん、お父さんをつなぐ手段だと思う。だから、本を手渡す時に、読書好きになってねということに加えて、「どうぞ、絵本の読み聞かせをしてくださいね。あなたが読んで、子供がすごく喜び、絵本が好きになるように。」ということを伝えてほしい。</p>

社会教育課長	前回もお話したが、そういうつもりでやっている。今後も、そのことを言葉で伝えて、手渡していけるよう心掛けていく。
教育長	外部評価委員会に2回同席させていただいた。資料のとおり、外部評価委員の点検・評価がだされているが、全体的には、教育総務課、学校教育課、社会教育課それぞれ取り組んでいる事業について、いい評価をいただいていると思う。ただ、課題として委員の方々から御指摘いただいたものを、教育委員会として予算を具現化し、よりよい教育環境を保てるように全力を尽くさなければならない。そのような中で、小学校の外壁改修も6校終わり、水之上小の体育館の建設も終わって、ある程度の学校の施設は終わりつつあるが、今後、垂水小学校の校舎も手を付けていかなければならないし、体育館の事も考えていかなければならない。又、学校教育課の中で、職員の服務規律について、先生方は、児童生徒の模範となる指導者であっていただきたいという委員の方々の御指摘もいただいた。このことも真摯に受け止めて、指導していきたいと考えている。それから、社会教育課の中では、子ども110番の家の所在を知らない子ども達が多いという意見があり、反省しなければいけないと感じた。防犯ブザー一等を持たせるのも一つの方法だが、もっと身近なところで安心安全な子供達を育成する手立てを、表向きではやっているつもりでも浸透していないということが、改めて、御指摘いただいてわかった。このようなことを踏まえながら、3課長と一緒に、取り組んでいきたい。
委員長	異議がないようなので、議案第16号は承認された。
4 その他	
学校教育課長	(1) あつまれわんぱく！夏の勉強会について 平成28年度「あつまれわんぱく！夏の勉強会」の内容及び予定等について説明
学校教育課長	(2) 夢の実現！学びの教室について 平成28年度「夢の実現！学びの教室」の状況について説明
学校教育課長	(3) 小学校における外国語活動指導講師の派遣について 小学校における外国語活動指導講師の派遣について説明
学校教育課長	(4) 教職員の研修（夏季休業中）について 教職員の研修（夏季休業中）について説明
学校教育課長	(5) ICT整備事業について ICT整備事業について説明
社会教育課長	(6) 第10回シーカヤック大会 in 垂水（報告）について 第10回シーカヤック大会 in 垂水について報告

田原委員	あつまれわんぱく！夏の勉強会、4年目になるが、今日初めて見た。年々児童参加数も増えている。夏休みの学習課題をしたり、さらに難しい課題に挑戦したり、それぞれがいろいろな友達と一緒に他の学校の先生から教えてもらって素晴らしい。これは、一部の子供が参加するのではなく、誰でも参加できる。そして、以前は、夏休み終わりの頃に難儀して学習していたが、現職の先生方からわかりやすく教えてもらって、学習意欲も出てくるという素晴らしい取組だと思う。是非、今後もたくさんの子供達に参加してほしいと思う。
中谷委員	シーカヤック大会について、皆さんで力を合わせ、海遊びが事故もなく開催され、とてもよかった。ただ、船を出された方々への配慮は十分であったのだろうか。当方がお願いしているわけだから、来年はそのあたりの配慮を是非検討していただきたい。事故あったらいけないので、何よりも皆さんの安心安全が大事だと思う。
社会教育課長	私の耳にも届いている。雨が降ったりで、長いこと開催できてなく、経験のないスタッフに変わっていたので、連携不足だった。係に、お礼状を手渡しするときにお詫びをするよう指導した。今後も課題として捉えていきたい。
葛迫委員	ICT整備事業について聞きたい。今の時代は、子ども達の学習も時間短縮ということで、タブレットを取り入れることについては、そういう時代かなと思う。しかし、タブレットを使うことによって、子供達がなかなか字を書かなくなったり、ものを描かなくなったりとするのが危惧されるが、どうか。また、タブレットを個人に配布して、管理はどうされるか。
学校教育課長	ICTの機器が入ってくると、字を書かなくなるという委員のおっしゃるような懸念はある。たとえば、キーボードを使っての入力となると、文字を書かなくなる。ところが、これはノートと同じ使い方もできるので、画面上に手で字を書き進めていくことができる。画面上に直接文字を書くことによって、より分かりやすく説明することができる。画面上に字を書く専用のペンもある。だから、書くという作業も可能である。これは、普通のパソコンではできない作業である。それから、タブレットで写真を撮るといのは、自分の書いたノートを、写真を撮ることで一気に見せるというようなことで、時間を短縮しつつ、中身を濃くしていくことができる。このように学習の深まりを狙う道具として活用させたい。そして、このタブレット、パソコンの管理は、基本的にはパソコン室に入れてあるので、使うときに教室等に持って行く。そして、使ったあとは、パソコン室に管理する。タブレットを子供が持って帰るといことは、基本的には考えていない。その時間だけの活用である。
葛迫委員	個人個人、生徒一人一人のパソコンがあるということか。
学校教育課長	これ自体は、垂水小学校でいうと、40台くらいしかない。だから、パソコン教室で使うときか、あるクラスがこの時間は使いたいというときは、

	教室に持って行って使う。共同で使うという考え方である。
葛迫委員	もし子ども達が個人でタブレットを持ってくる場合は考えられるか。
学校教育課長	ソフト及びネットワークの関係上、個人用のタブレットの活用はなかなか難しい状況がある。
葛迫委員	子供は、自分のものを持ってきたがるので、しっかりと対応してほしい。
田原委員	タブレットを使つての授業は効率的で非常に素晴らしい。問題は、それを使いこなす先生の研修で、これが一番重要である。今年導入するのであれば、今年から来年にかけて、市内のすべての先生方が使いこなせるというところまでいかないと、子供達の学力向上にはつながらない
委員長	素晴らしいテクノロジーだ。佐賀県等は進んでいるが、これを導入すると県下ではどうか。
学校教育課長	タブレットの導入は、県下でもかなり先進的である。一クラスの子ども達が全員使えるというような状況はあまりない。全校にそれが揃うということは、かなり先進的な取組である。
5 報 告	委員並びに教育長及び課長報告
委員長	教育委員、教育長及び各課長の報告に入る。
委員長	<p>1. 「九州地区市町村教育委員会連合会理事会代表者会について」</p> <p>7月28日から29日に九州地区市町村教育委員会連合会理事会代表者会が開催された。九州7県プラス沖縄の8県の代表の方々が集まった。新旧年度の事業報告や事業計画及び予算、決算、また、役員選任等が中心議題であったが、一つだけ報告しておきたい。</p> <p>それは、新制度下における教育委員の任務についてだが、その代表者の呼称(名称)をどうするのかという問題だ。この件については、文部科学省は特にタッチしないようで、具体的な提案はしないということなので、全国的に統一したものは決まっていない。そのような中で、九州地区だけは統一したいということになって、A「代表教育委員」とB「教育長職務代理者」の2案が出た。B「教育長職務代理者」案は、法的に無理が生じるとのことで、Aの「代表教育委員」の案で、各県それぞれのブロックに下ろすということになった。まだ、最終決定ではないが、この方向で進むものと思う。</p> <p>2. 「あつまれわんぱく！夏の勉強会について」</p> <p>あつまれわんぱく！夏の勉強会について、本日先程垂水中央中での勉強会の様子を見てきた。市内小学校の4年生、5年生、6年生が時間割に沿って各教室に分かれて取り組んでいた。皆一生懸命学習に取り組んでいた。</p>

各学校における授業においても、担任の先生が同じように丁寧に懸命に御指導されているわけだが、このように特別に計画された勉強会では、学習者の気持ちの持ち方が全然違ってくる。学習に対して強い意欲、やる気と期待、ここで勉強すれば、自分でも理解できる、向上、上達できると、学習に取り組む気持ちの高揚感が生まれてくる。これが、普通の学校での学習と違う力を発揮するということだ。今年の参加人数は128人とこれまでで一番多いとのことである。これからもますます充実していくものになる。水之上小の皆さんももっと参加できるように、さらによろしく声援を送っていただきたいと思う。また、中学生対象の、「夢の実現！学びの教室」も毎月第1と第4土曜日に開かれているので、こちらの参加も願います。

田原委員

1. 「市町村教育委員会委員研修会について」

7月28日県庁で開催の市町村教育委員会委員研修会に出席した。午前中教職員課、義務教育課等全部で8つの課や関係系の課長やそれにつぐ係の方から、「当面する課題」や「重点施策」についての説明があった。

午後からは、教育委員による研究協議があり、垂水市は事例発表することになり、「学力向上対策」について、南さつま市、垂水市、喜界町3市町から発表した。

垂水市には、教育委員会のパンフレットがあり、「学力向上のため」の冊子や、「垂水市の教育」というリーフレット、また、校長研修会や教頭研修会も実施していることや、「授業の充実のための取組」として、市の授業モデルを示し、日々全職員で実施していること、さらには、「垂水タイム」というものがあり、今日帰ったらこんな事を勉強すると各自が振り返る時間を、帰りの会で設定していることについて説明した。また、家庭では、学習できる環境を作るための「家庭学習のすすめ」という啓発資料を配布していることや教育委員会が児童生徒へ直接学力向上のために取り組んでいるものとして、小学生を対象に3年目になる「あつまれわんぱく！夏の勉強会」、中学1年生を対象に今年から実施した「夢の実現！学びの教室」の実践内容や児童生徒の反応について語った。他の市町の発表も土曜日に同じように学習会を開いているというものであった。

中谷委員

1. 「学校応援団会議について」

7月22日に学校応援団会議に出席したが、バス添乗の際、あるコースの便の生徒の挨拶が無いということが指摘された。応援団の方が、「おはようございます。」と声をかけても返事がなかったようだ。私は最近、鹿屋市のある病院に初めて行ったが、その職員が行き交うたびにどの職員もひとりひとり「こんにちは。」と挨拶をされる。やはり、挨拶をされると、とても気持ちが明るくなり、「こちらこそ。」「ありがとうございます。」と言いたくなるくらいであった。この挨拶は、学校や病院の顔にもなる。先程の通学バスの中の中学生の挨拶については、きちんと注意すべきだと思う。

2. 「市小学校水泳記録会について」

7月22日垂水小学校で、市の小学校水泳記録会があった。この水泳記録会の時に、体育大生のお手本が児童の前で披露されるが、とても意味のあるものだと思う。



また、今年は、子供達を水の中に入れ、大学生が自分の目の前に来た時には、子供達をそれぞれ潜らせ、その泳いでいる姿を水の中で見せた。また、スタートの時に水の中に長く潜って泳ぎ始めることの意味を、子供達は大学生に教えてもらった。テレビでリオオリンピックの水泳を見ながら、垂水の子供達は市の水泳記録会に参加することによって、本物を目の前で見られてよかったと思った。新記録も出て、垂水の子供がやがてオリンピックに出ることがあるかもしれないと楽しみに思った。

### 3. 「人と人との交流について」

KTSテレビで、寺子屋の様子を8月5日に放映してもらった。子供も大人も集える場所提供から始めた寺子屋だが、長い夏休みに子供達が集まって来て、勉強、遊びはここ十数年来の定番になっている。今では、地域の方が様子を覗きに来たり、子供達のお父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんも巻き込んで一緒に食事会もするし、皆さんの見守りの中でのキャンプも続けている。まさに、手作りの集まりを力を合わせて楽しんでいる。

また、今年は、柘原小に1ヶ月在籍していたカナダの小4、小2の児童が、今日帰国したが、寺子屋に通ったことで、英語、フランス語、異文化にも触れることができた。

また昨日は、私共のところに、フランス、オーストリア、カナダの方々が集まってくださり、皆で会食した。人間ていいなあと思う。今、初めてお会いしたのに、「ハロー。」、「まあ、ようこそ。」と握手ですぐ仲良くなり、会話も身振り手振りで楽しい時間を過ごせた。どの方も命がキラキラ輝いていて、私はこういう体験を通して、人と出会えることを強く感じた。

葛迫委員

### 1. 「市小学校水泳記録会について」

7月26日垂水小学校で、市内小学校水泳記録会に参加した。2名の児童が大会新記録を樹立するなど、これからが楽しみだ。また、4年後に鹿児島国体や東京オリンピックも開催されるということもあり、今の小中学生を中心にした選手が盛り上げてくれるのを楽しみにしている。

### 2. 「美術館による夏休み企画展について」

美術館による夏休み中の企画展について、鹿児島市立美術館では、「最後の印象派展」、鹿児島県歴史資料センター黎明館では、「魔法の美術館」、鹿児島県霧島アートの森では、「松井えり菜展 顔の惑星」、松下美術館では、「南九州水墨画展」、長島美術館では、「おしゃべりな妖精たち 玉利潤子展」が開催されている。現在、鹿児島市立美術館の「最後の印象派展」、松下美術館の「南九州水墨画展」を観覧した。

「最後の印象派展」については、ゴッホやマネ、セザンヌといった印象派の様式が終わりを告げると、19世紀末から20世紀初頭にかけて美術界を席卷していたのは、ピカソやマチスなどのモダニズムといったキュビズムやフォーヴィスム運動であった。ところが一方では、美術愛好家を中心に強く支持されていた芸術家集団（ソシエテ・ヌーヴェル）があった。今回の展覧会は、ピカソやマチスではなく、そのソシエテ・ヌーヴェルのメンバーの作品を83点展示している。印象派の影響を強く残した作品が多

く、「アンリ・マルタン」の《野原に行く少女》は、新印象派の点描を取り入れている作品である。

「南九州水墨画展」については、全国公募の展覧会で、垂水市でも「和田英作、和田香苗記念絵画コンクール」を開催しているが、県内県外から116点の作品が集まった。特筆すべきは、県外出品者が約半数の46名ということだ。最高賞に選ばれた作品は、イチョウの葉が舞う中を、子供達がイチョウの葉と一緒に遊ぶ様子が描かれていた。水墨画というと、どうしても「静」の絵画という感じではあるが、この作品は、「動」を狙った作品であり、日常の在り様を描いた素晴らしい作品であった。

教育総務課長 7月12日から8月9日までの主な行事等についての報告、併せて、9月15日までの予定について、資料での確認をお願いした。

## 6 閉 会